



# 日刊 千葉労働動力

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043 (22) 7207 番

94.5.20 No. 3997

## 失業と侵略戦争切迫の下

## 労働者の闘いの指針鮮明に



### 交流センター オムロ合宿 大成功

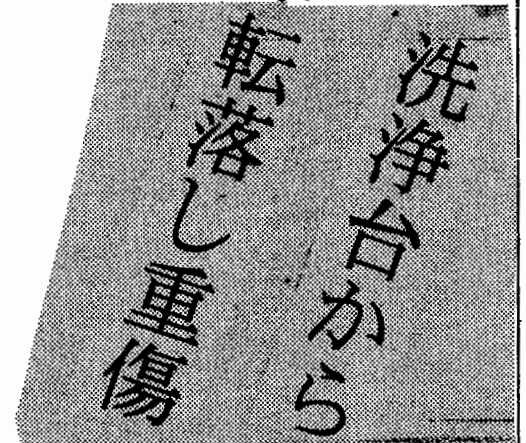
五月十四、十五両日開催された「交流センター」第六回合宿は、会場の軽井沢・高原荘を借り切る大結集となり、熱気と使命感あふれる有意義な合宿としてかちとられた。

日本・アメリカ帝国主義の朝鮮侵略の切迫と大失業の時代にあって、われわれ労働者はどう生き闘い、歴史的使命をはたすのか、真剣に学び、交流し、闘う団結をうちかためてきた。

### ―直ちに安全対策を―

五月五日、幕張電車区で、作業検査中の組合員が、洗浄三番線の洗浄台から転落し、股関節(骨盤)骨折という重傷を負うという傷害事故が発生した。洗浄台上に設置された、ATC検査用のケーブル収納箱の扉が折からの強い風に煽られて身体に当たり、約二m下の線路に転落した、というのが事故の発生状況である。

幕張電車区では、車両整備会社の労働者も含め、この間も洗浄台からの転落事故が何回も起きている。とくに洗浄三番は、洗浄台の幅が最も狭く危険であるにもかかわらず、何の安全対策もとられてこなかった。しかも、洗浄台のレール下は、五〇cmほど掘って低くなった構造になっており、打ち所によっては死傷事故にもつながりかねない。われわれは、今回の事故を教訓として、抜本的な安全対策を講ずる必要があると考える。



洗浄台から  
転落し重傷

とくに、この間幕張電車区では、作業検査要員の大幅な削減が強行されており、作業ダイヤは過密になっている。作業に余裕がなくなればなくなるほど、さらに傷害事故発生の可能性は高くなる。

動労千葉は、五月十一日、この傷害事故について、千葉支社に申し入れを行い、早急に安全対策を講ずるよう求めている。千葉支社は、直ちに抜本的な安全対策を明らかにせよ。

### 本末転倒!

### ヨビ勤務中

### の小集団

### 活動で

### 大怪我!

千葉運転区で、予備勤務中の他労組組合員が、傷を数針縫うような大怪我をするという傷害事件が発生している。怪我の原因は「小集団活動」であった。

五月十四日、「CJJK活動祭九四」と称する小集団活動集団のゴマスリ大会が行なわれたが、千葉運転区当局は、出勤予備勤務者に、このゴマスリ大会で使用する「大うちわ」の作成を命じ、傷害事故は、この作業中に

発生した。本来の業務はそっちのけで小集団活動に現つてをぬかしていた結果の傷害事故である。本末転倒もはなはだしい。予備勤務の者は、突発的な事態に備え、いつでも乗務できる態勢を整えて待機していなければならぬはずだ。小集団活動の「大うちわ」作りなど、本来の業務と何の関係もないことであるどころか、「業務」とすら言えるものではない。そのようなことを予備勤務の者に命ずること自身が大きな問題だ。

そもそも、小集団活動は、当局のたて前から言っても、勤務以外の時間で自主的に行なうべきものではないか。それを、勤務時間中に命ずるとは、一体どういうことか? しかも、千葉運転区は、大幅な欠員状態がずっと続いており、この日も予備勤務者はひとりしかいなかったのである。まさに本末転倒!

列車を運行し、安全を守るといふ本来の業務すらまともにできない状態にもかかわらず(できないが故か?)、小集団活動のような事だけでは、異常な熱心さを示す千葉運転区当局の姿勢が引き起こした傷害事故と言わざるを得ない。

会社としては、業災申請を行なったと言うが、このような業務ならざる「業務」を命じて傷害事故を引き起こした千葉運転区当局の責任は問われざるを得ない。